

<http://ameblo.jp/rt-qt/theme-10026994873.html>

「3Dフォーム」

インスタレーション。2択の扉を選択していく性格診断のようなもの。

↓私の結果。ネタバレOKの方は拡大してご覧下さい。



作家:マルティン・エンゲルフレクト CC / BY-NC-ND

・「小さな東京モニュメント」

参加型インスタレーション。ブロックとセメントを使って、みんなで何かを作るという作品。

ひとりひとり、何を意図していたか想像してみると楽しいです。

ここでは小さなブロックですが、他の展示会(おそらくオランダ?)ではレンガを使っていた模様。



作家:マルティン・エンゲルフレクト CC / BY-NC-ND

【展示会の評価・感想】

作品数は少なめでしたが、意外に楽しめました。

料金内で常設展も見られるし、他にもう1つ企画展もあったので1日楽しめます。

「アート」って何なのか、ますます分からなくなりました。

[記事URL コメント ペタ](#)

2010-10-25 04:46:01

rt-qtの投稿

開窯300年 マイセン 西洋磁器の誕生

テーマ:[展示会など](#)

【日時/場所】

2010/10/24(日) 大倉集古館(虎ノ門・ホテルオークラ東京)

開催期間:2010/10/02~2010/12/19

【展示会の説明】

創立300年のマイセン工場の初期作品を中心に展示。

当時のヨーロッパには磁器がなく、東洋から持たされた磁器には金銀同様の価値があった。

そんな中、ザクセン侯国のアウグスト強王によって、1710年マイセン工場はヨーロッパで最初に磁器を成功させた。

ということらしいです。

残念ながら展示品の写真撮影は禁止です。悲しい。

#### 【気に入った作品】

・セピア彩・朱彩の食器

青・赤・金等の模様が入った磁器は見たことがありましたが、セピア・朱の模様は初めて見ました。

セピアと金で描かれた花の模様の皿、朱色の模様が入ったティーセット、衝撃的な美しさです。

こっ、これは(ー\_ー)!!..... 欲しい♡ <無理

・スノーボール

表面に小さな花がびっしりと敷き詰められた食器が数点。

雪玉というより、蜂の巣?ゴルフボール?のような印象

こっ、これは(ー\_ー)!!..... 使い難そう

こんな精緻なものが300年も保存されていた事に驚きます。

・磁器人形「商人の妻」

それ以前は、砂糖菓子やマジパンで作るしかなかった宴会の卓上の飾りも、磁器の登場で様変わりし、細かな表現が可能になりました。

展示品の中で一番細かいと思われた作品がこれ。人形が手にしている帳簿は、中の数字まで細かく描かれています。

#### 【展示会の評価・感想】

この場所は穴場的な存在のようで、人も少なく、じっくりと作品を見ることができました。

作品は全てガラスケースの中にあるので、全体を舐めるように鑑賞することはできませんが、食器に描かれた絵を1つ1つ眺めているだけで楽しめます。

白地に青や赤の模様に、妙に心が落ち着く感じがしたのは、よく考えると、それがガンダムと一緒にだったからかも知れません。意外に、そういうものをヒントにデザインしているのかも知れません。

たまに、おしゃべりの過ぎる団体客がいる以外は、とてもいい展示会だと思います。

#### 【買ったもの】

ポストカードセット6枚500円 <あざといセット商法乙